

にい みずよし

「倪 瑞良の切り絵」

～華麗なるモノクロームの世界～



「葡萄酒」

「光陰の理」 ～ときのことわり～

「茶」

2021/4/10sat ▶ 6/27sun

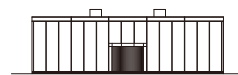
ギャラリートーク

- 4月10日(土) ①11:00～ ②13:30～
- 5月 8日(土) ①11:00～ ②13:30～
- 6月12日(土) ①11:00～ ②13:30～



富士川クラフトパーク内

富士川・切り絵の森美術館
FUJIKAWA KIRIE ART MUSEUM



「にい 倪 みずよし 瑞良の切り絵」

～華麗なるモノクロームの世界～

切り絵作家 倪 瑞良は、1949年（昭和24年）5月、神戸市で生まれています。両親は上海から神戸に移り住み洋服の仕立て業を営んでいました。倪少年は、父の仕事や刺繍を好む母の影響を受け、紙を切ること、絵を描くことが大好きで得意でした。高校を卒業すると希望する美術大学への進学を諦め、父親の跡を継ぐ服飾デザイナーへの道を選択します。デザイン学校（服飾）を卒業後、横浜中華街の片隅に身を寄せていた倪青年は、服飾とは別に、紙を切り創作する絵画の世界にのめり込んでいました。当時の作品は中国伝統の“剪纸”（せんし）を基本にしたものが多かったと言います。やがて倪青年はヨーロッパで一時代を風靡したアールヌーボーの世界観に魅了され、4度にわたるパリでの学習と見聞で、作風も次第に変化し、今、私たちが倪瑞良作品をイメージするあの華麗な作品の原形が既にこの時代に誕生しています。倪瑞良作品の特徴として大きく次の3点が挙げられます。

- ① 基本がモノトーンであること。（彩色は裏貼りによる）
- ② 作品は一枚に繋がっていること。
- ③ ナイフ1本で切り抜かれた微細な曲線で構成されていること。

作品は、対象のデッサンから始まり、下絵が描かれ、原画を黒い和紙に重ね合わせ、1ミリにも満たない線を細部にわたってナイフで切り出していきます。作品はモノトーンの切り絵ですが美しく華麗で、チェコのアルフォンス・ミュシャの作品と比較されるなど多くの人を魅了し、惹きつけました。横浜中華街で飛翔を始めた天才的切り絵作家倪瑞良も、間もなく画業50年を迎えようとしています。今企画展では切り絵作家倪瑞良が半世紀をかけて追い求めてきた“紙による究極の美の表現”を時代背景に思いを重ねながらお楽しみいただければ幸いです。

2021/4/10sat ▶ 6/27sun

- 主 催：富士川・切り絵の森美術館
- 共 催：山梨日日新聞社・山梨放送
- 後 援：山梨県、市川三郷町、富士川町、早川町、身延町、南部町
 (株)テレビ山梨、読売新聞甲府支局、朝日新聞甲府総局
 毎日新聞甲府支局、産経新聞甲府支局
 (株)山梨新報社、(株)エフエム富士、(株)エフエム甲府

- 開館時間：午前9時30分～午後5時30分※入館は閉館30分前まで
- 休 館 日：毎週水曜日（祝日の場合は翌日）
 ※5月5日(水)は開館、5月6日(木)は休館
- 入 館 料：一般700円（600円） 小中学生300円（250円）
 （ ）内は20名以上の団体料金

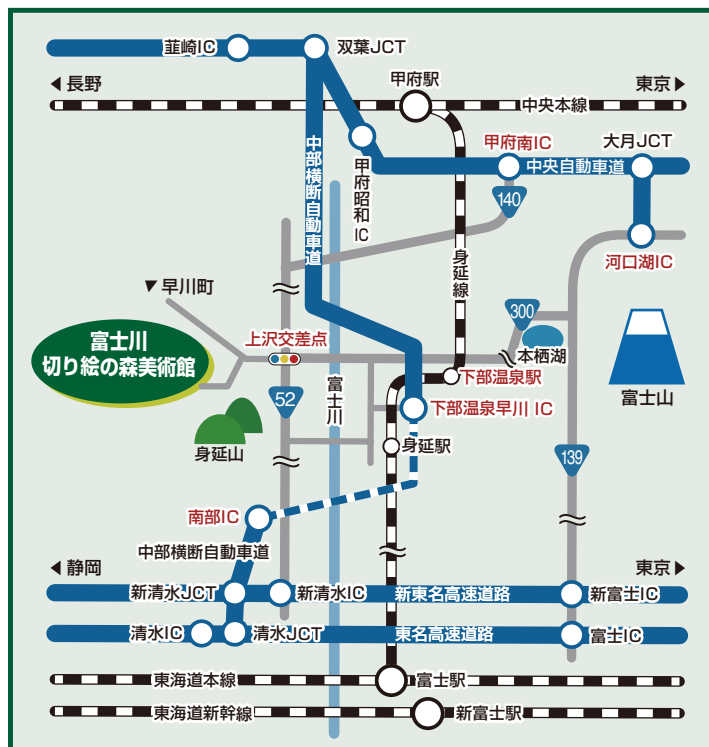
交通のご案内

□お車で越しの場合

- 東京・長野方面からは
 ・中部横断自動車道下部温泉早川ICより約5分。
 身延町下山「上沢交差点」を直進。
- 関西方面からは
 ・中部横断自動車道南部IC下車。R52を甲府方面へ約20分。
 「上沢交差点」を左折。

□JRでお越しの場合

- 東京・長野方面からは
 ・JR甲府駅にてJR身延線に乗換。下部温泉駅下車、タクシー利用で約5分
- 関西方面からは
 ・新幹線静岡駅にてJR身延線接続の「特急ワイドビューふじかわ」に乗換。
 下部温泉駅下車、タクシー利用で約5分



富士川クラフトパーク内
富士川・切り絵の森美術館
 FUJIKAWA KIRIE ART MUSEUM

〒409-2522 山梨県南巨摩郡身延町下山1597
 TEL 0556-62-4500 FAX 0556-62-4115
<https://www.kirienomori.jp/>



URL QRコード